



国際病理アカデミー

日本支部

A NEWS BULLETIN

1998 Number 1

Published quarterly
by the Japanese Division
of the International
Academy of Pathology

OFFICERS

PRESIDENT

S. Ushigome, M.D. (00)
Jikei University

PAST PRESIDENT

M. Suzuki, M.D. (00)
National Defense Medical College

PRESIDENT-ELECT

R. Y. Osamura, M.D. (00)
Tokai University

SECRETARY-TREASURER

O. Matsubara, M.D. (00)
National Defense Medical College

COUNCILLORS

K. Maruyama, M.D. (98)
Formerly, Chiba Cancer Center

T. Akagi, M.D. (98)
Okayama University

M. Shamoto, M.D. (99)
Fujita Health University

S. Mori, M.D. (99)
University of Tokyo

T. Manabe, M.D. (00)
Kawasaki Medical School

M. Tsuneyoshi, M.D. (00)
Kyushu University

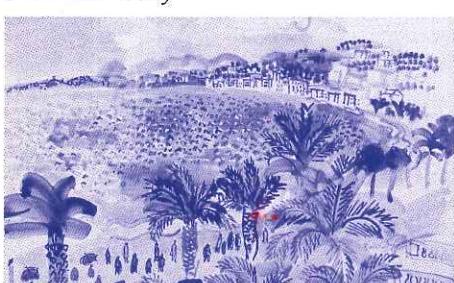
COMMITTEE CHAIR

Education

T. Morohoshi, M.D. (00)
Showa University

Finance

Y. Konishi, M.D. (98)
Nara University



XXII International Congress of the
International Academy of Pathology
and 13th World Congress of Academic
and Environmental Pathology
Nice, France, October 18-23, 1998
Congress Office: CONVERGENCES/IAP98
Tel: 33-01-43-647777, Fax: 33-01-40-310165
E-mail: CONVERGE@IWAY.FR

会長就任にあたって

牛込新一郎

鈴木実会長を引き継いで、大役を仰せつかることになりました。在任中に開催が予定される「IAP 名古屋 2000」を無事に成功させねばならないこともあります。身の引き締まる思いであります。一言ご挨拶申し上げたいと存じます。

はじめに、IAP日本支部の日ごろの活動に関しまして、会員各位、理事各位のご協力に対しまして心から感謝いたします。

日本支部の役割としましては、ご存じのように、IAP本部との密な連絡、国際会議をはじめとする各種の情報を日本支部会員へお知らせすること、病理学の生涯教育を中心に積極的に活動

することなどがあります。日本支部は1961年にシカゴで開催されたIAP理事会で正式に加入を承認されましたので、平成10年には37周年を迎えたことになります。記録によりますと（25周年記念誌による）、設立当時は66名の会員数でしたが、現在は575名と著しく拡大いたしました。IAP国際会議ごとに本邦病理医の参加数、研究発表が増加していますが、これ以外にもUS-CAPおよび各種専門領域において、次第に研究発表される方が増えておりますので、国際化の影響によるものと思われ、喜ばしいことであります。

このような背景にあって、諸先輩が築かれたこれまでの路線をさらに発展させることが私どもの役員の役目と考えています。会員各位のご意見とご協力をいただきながら、これらの役割を全うしたいと思いますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。決して無理をすることはできませんが、欧米のみに片寄らず、アジア近隣諸国などともっともっと交流し、理解を深めてはと考えております。

さて、鈴木実会長の3年間には、国際会議を何とか日本に誘致することで、役員が協力してやってきました。会員の方々のご支持により、また鈴木会長の見事なプレゼンテーションにより、お陰さまで「IAP Nagoya 2000」となった訳です。この辺りの事情は鈴木先生のご挨拶の中で詳細に述べられると思います。

なぜ、日本で多少無理しても国際会議を開催せねばならないかの理由は、本邦の病理の眞の姿を全世界の病理医に理解していただく機会とすること、将来の日本の病理を支える方々にとって素晴らしい学問的交流の好機となればの二つに尽きると思います。21世紀を目指す節目の年にあたり誠に意義深いものと考えます。



Message from the President of the Nice Congress

The French Division is honored to welcome the XXII International Congress of the IAP and the 13th World Congress of the Academic and Environmental Pathology next October (18-23) in Nice. We are looking forward to greeting you soon in this charming resort located in the south of France, on the glamorous Riviera by the beautiful Mediterranean Sea. The scientific program was carefully devised to provide you with a variety of quality conferences on current topics in pathology. Free papers and posters will also be available throughout the week. The social program will give you a taste of French culture, with a special emphasis on Southern France. The Convention Center in Nice is located close to the sea, between the old city and the business district. Many airlines fly directly into the Nice International Airport which is only one hour by plane from Paris. I therefore wish you a pleasant trip and look forward to meeting you soon. F. Jaubert, M.D.



「IAP Nagoya 2000」が決定してからは、日本病理学会を中心を開催準備を進めることになったのはご承知の通りであります。組織委員会、実行委員会などが組織されました。IAPには、現在48支部があり、全会員数12,193名ですが、会則があり、国際会議に関してもそれなりのルールがありますので、これを遵守しつつ、日本独自の特徴をも組み入れながら、印象に残る立派な国際会議となることを念願いたしております。大成功に向けて、関係者は周到な準備を行なうことになりますが、IAPの国際会議でありますので、日本支部としましても共に協力して準備を開始いたしております。国と国、人ととの学術的交流、文化的な交流となる訳でありますから、多数の参加者を得るには、まず学術プログラムの内容が最も重要であることは無論であります。さらに、同伴者プログラムも充実したものでなければなりません。さらに私どもとしましては、とかく気付かない部分で配慮をしつつ役割を果したいと考えております。これには会員各位のご理解、ご協力と個人レベルでの意見交換や交流も大きく貢献すると信じておりますので、何卒よろしくお願ひする次第であります。第23回目にあたる「IAP Nagoya 2000」はアジアでは3回目の国際会議（第6回は京都で、第20回はホンコン）となりますので、欧米やカナダのみを主体とするのではなく、南米、アフリカ、さらに中近東やアジア各国からも多数参加があり、交流に貢献されるようにしたいもであります。日本からは今は比較的の外國には出やすくなりましたが、欧米のみならず、比較的近いアジア諸国からは一つには経済的理由から決して容易にはいかないこともあるのが、大変気掛かりであります。IAP本部のアジア担当の副会長の立場としましても、アジア・パシフィックの各支部との連絡、交流の促進に微力ながら、努力し、情報等をお知らせいたす所存ですので、すでに病理学交流に実績を残されている会員の方々にも一層のご指導を、重ねてお願ひしたいと思います。ご存じのように、不安定の日本の経済状態がしばらく続くことも予想されており、世界各国、特にアジア各国でも深刻な財政問題を抱えている今日、国際会議開催が決して容易でないことも考えられます。しかし、あらゆる工夫と努力のもとに協力し合い、成功に向けられればと思います。

最後に、「大成功に向けて」のお知恵がありましたら、お教えいただきたく、重ねてご協力、ご支援をお願いいたします。

会長任期満了にあたって 鈴木 実

私は平成6年（1994年）秋のIAP日本支部総会で会長に選出され、1997年末で3年間の任期を満了しました。私が今まで日本支部の役員として在任中の主な事柄をこの機会にお知らせしておきたいと存じます。

第一に韓国との学術交流です。私がIAP日本支部理事に推薦された昭和63年（1988年）頃、当時のIAPアジア地区担当副会長（IAP Vice-President for Asia）でいらした故西山保一先生と日本支部・石川栄世会長および福田芳郎次期会長より韓国との交流計画が持ち上がり、当時の大韓民国病理学会会長・兼IAP韓国支部会長・金象浩教授（Prof. Sang Ho Kim）および役員の方々をまずIAP日本支部総会にお招きし協議の末、日韓合同スライド・カンファレンスを2年毎に実施することが合意されました。この合同カンファレンスは奇数年に（すなわちIAP International Congressのない年に）日本と韓国が交替で各々の国で主催する学術交流で、最近の第5回Meetingが平成9年1月慈恵医大高木会館で開催されたのはご記憶に新たであると思います。第5回には韓国より32

名、日本より74名の病理医が集い、初期の頃に比べると毎回参加者も増え、内容（症例のdiscussion、特別講演など）も充実してきました。日韓合同スライド・カンファレンスの度に病理学専攻の韓国の先生方の熱心で真摯な仕事の取組み方に敬意を感じています。

第二に、上記の日韓合同スライド・カンファレンスが軌道に乗ってから4~5年後の1993年頃、IAP Australasian Divisionより石川前会長と牛込常任幹事（当時）を通じてアジアの主要IAP支部合同ミーティングの提案がありました。Prof. Philip Allen（オーストラリア人）がIAP International Presidentでいらっしゃることもあって、日本支部はAustralasian Divisionとは親密でしたが更に香港支部と韓国支部も加えて合同会合を持とうという企画です。この案についてフォーマルな会合が1995年6月シドニーで開催のIAPオーストラリア支部総会に招待された時に開かれ、日本・韓国・香港・オーストラリアの4支部が合意し、4年ごとの奇数年に、原則的にオーストラリアで開催することに決まりました。しかし、1999年の第2回ミーティングは梁文浩教授（Prof. Moon Ho Yang、韓国IAP代表）の強い要望で韓国ソウル市で開催される予定です。

第三に、会員各位既によく御存知の通り、2000年のIAP International Congressは日本（名古屋市）で開催することが決定しました。第一回目の日本でのコングレスは1966年京都で開催され以来30年経っており、第二回招致は日本支部の念願でした。1990年Buenos Airesでのコングレスに日本支部は1994年に向けて立候補しましたが果たせませんでした。当時の日本支部常任幹事・牛込先生（現会長）はそれ以来地道な努力を払いコングレスの日本開催への準備を続けました。その間、日本支部会員数は282名より560余名と倍増し、International IAP総会 Councillors' Meetingでの日本の票数は2票から3票に増えたわけです。1996年Budapestでのコングレスで2000年の日本開催に立候補し、日本支部はギリシャ支部と決選投票となり、33票対23票で日本に決定しました。2000年コングレスは名古屋CONGRESS CENTERで開催しますが、この企画は日本中の病理医の方々に総力をあげて取組んでいただかなければならぬ大規模な国際病理学会ですから、日本病理学会に協力をお願いし、町並陸生総務幹事が会長となって実行していただくことに決まりました。現在の日本の経済事情がたいへん厳しいことから予算面での運営は容易ではありませんが、実行委員会は準備作業を着々と進めています。IAP日本支部会員の諸先生方には、学術・経理運営面での積極的ご参加とご援助を切にお願い申し上げます。

第四に、IAP日本支部運営上の重要変化としてあげられるのが、理事の選出方法の改正です。以前より日本支部での理事選出方法について会員よりいろいろご意見が出されていましたが、そのためにはまず委員会を編成して日本支部会則の改訂案を作成しました。改訂案では全会員による投票形式とし、この案が平成8年総会で承認され、平成9年総会で2名の任期満了理事の後任が全会員の投票により選出されました。理事選出方法の改訂はやや遅きに失した感はありましたが、この新しいやりかたがこれから日本支部の発展につながってゆくことを期待しています。

最後に、IAP日本支部と日本病理学会との関係について私の見を述べさせていただきます。日本支部と病理学会は親密な協力関係にあり、例えば教育講演、スライドセミナーなども毎年協賛で実行しており、日本支部は病理学会より毎年援助金もいただいている。最近になって会員各位ご存じのとおり、日本病理医協会が病理学会法人化の機会に協会を「発展的に解消させ」、病理学会の中の病理医部会に移行させるべきとの意見もあります。同様な考え方で、IAP日本支部を病理学会の中の国際交流担当の部会に移行させてはとのご質問を何回か受けました。この事柄に関して日本支部会報を通じて会員の方々のご意見を求めましたが反応は零でした。これからIAP日本支部の日本国内での在りかたについて私の考えを述べさせていただくと、日本支部は今まで通りの独立した学術組織として諸外国のIAP支部と密接な協調を保ち、病理学の教育・研究交流活動を続けるべきと考えます。何故ならば、IAP支部は日本も諸外国も病理学の卒後教育と研究



活動に主眼を置いて均質に組織化された学術集団だからです。病理学会の中に国際交流委員会を置くことは意義のあることだと思いますが、日本病理学会にIAP日本支部を移行させてもメリットはなく、若しその様な融合が行なわると日本支部と外国のIAP支部およびIAP本部との連繋が円滑にゆかなくなるおそれがあります。先進国の一例として米国の場合、IAP米国・カナダ支部(USCAP)、大学研究機関の病理学会(Am. Society for Investigative Pathology)、臨床病理学会(ASCP)、病理医協会(CAP)など全て独立した学術組織で移行や融合など不可能です。この度の2000年IAP Congressの様に大きな国際学会開催の場合は病理学会と日本支部が協力して実行することが、わが国の病理学発展に最良の道であると私は考えます。

おわりに、私がIAP日本支部会長としての大役をなんとか3年間遂行したのは、ひとえに会員各位のご理解あるご支援とご好意によるものと深く感謝しております。

1998年IAP病理学教育セミナーのお知らせ

1998年(平成10年度)IAP日本支部主催の病理学教育セミナーを11月20日に日本病理医協会と日本臨床病理学会の協賛、日本病理学会後援、また小西会計監事の絶大なご協力のもとに下記の通り開催致します。

日時：平成10年11月20日(金) 9:00～17:15

場所：奈良県立医科大学(橿原市)

教育シンポジウム(9:00～11:45)

主題：「*Helicobacter pylori*と胃疾患」

モデレーター赤木忠厚先生(岡山大学医学部病理学第二)

1. *H. pylori*の細菌学

小熊恵二先生(岡山大学医学部細菌学)

2. *H. pylori*感染による胃粘膜障害の機序

名倉 宏先生(東北大学大学院医学研究科病理学)

3. *H. pylori*感染の病理診断

勝山 努先生(信州大学医学部臨床検査医学)

4. *H. Pylori*感染とMALTリンパ腫

吉野 正先生(岡山大学医学部病理学第二)

◎当日はご自由にご参加下さい。(会場費3,000円、ハンドアウト代含む)その時に認定病理医の更新に必要な領収書をご用意いたします。5単位が得られます。

スライドセミナー(13:00～17:15)

1時限目 13:00～

*A、下部消化管の病変

岩下明徳先生(福岡大学筑紫病院病理部)

B、乳腺の病理

坂元吾偉先生(癌研究会癌研究所乳腺病理部)

C、子宮の病理

森脇昭介先生(国立四国がんセンター臨床病理部)

D、悪性リンパ腫(WHO, REAL分類を含む)の病理

菊池昌弘先生(福岡大学医学部病理学第一)

中村栄男先生(愛知県がんセンター病理部)

2時限目 15:15～

*A、皮膚の色素性病変

真鍋俊明先生(川崎医科大学病理学)

B、軟部腫瘍

恒吉正澄先生(九州大学医学部病理学第二)

C、骨髄の見方と病理

糸山進次先生(埼玉医科大学病理)

D、肝臓の結節性病変の病理

神代正道先生(久留米大学医学部病理学第一)

*印は新規のものです。認定病理医の資格更新に役立つ10単位が得られます。お申し込みは綴じ込みの葉書にてお願い致します。同時期に開催される第44回日本病理学会秋期特別総会(奈良市)とは開催場所が異なりますのでご注意下さい。

第5回日本韓国合同スライドセミナー The 5th Japanese-Korean Joint Slide Conference

前々回会報で去年の11月22日に東京慈恵会医科大学高木会館にて韓国側から32名、日本側から74名、合計106名が参加して行われたことを紹介しましたが、ここで当日のプログラムの一端を紹介しておきます。

10:00-12:00AMに参加者はRegistrationし、Preview Roomでスピーカーはスライドプレビュー、Conference Timeは8分 for the Discusser, 6分 for the Submitter, と6分 for free discussionの予定であったが、一部のスピーカーが時間を守らないため時間が延長してしまいました。

Opening Ceremonyは13:00-13:25の間に、

1. Opening Address: 牛込新一郎, M.D., President-Elect, Japanese Division of IAP, Professor of Pathology, Jikei University

2. Welcome Address from Japanese Division: 鈴木 実, M.D., President, Japanese Division of IAP, Emeritus Professor of Pathology, National Defense Medical College

3. Introduction of the Japanese Participants: 長村義之, M.D., Secretary / Treasurer, Japanese Division of IAP, Professor of Pathology, Tokai University

4. Opening Address from Korean Division: Moon Ho Yang, M.D., Ph.D., Director, Korean Division of IAP, Professor of Pathology and Dean, College of Medicine, Kyung Hee University

5. Introduction of the Korean Participants: Jong Sang Choi, M.D., Ph.D., Chairman of Directors, Korean Society of Pathology, Professor of Pathology, Korea Universityと、両国側から5人がスピーチ、また参加者の紹介を行った。

スライドセミナーは両国から6例ずつ出題し(Submitter)、臨床経過とHE染色の標本のみが配付される。日本側のものは韓国側のMoon Ho Yang先生へ、韓国側のものは松原の所へまず送られ、参加希望の機関あるいは会員へ配付と同時にその標本の専門家あるいは権威筋と思われる先生へDiscusserとして発表、あるいはChairpersonとしてまとめて頂くことを頼みました。6例ずつのPart #1、Part #2のSlide Conferenceに分け、特別講演を東大医科研の森 茂郎先生に頼みました。

Slide Conference (Part #1)は13:25-15:25に予定され、

Case IAP 97-K1 (Lymphoepithelial carcinoma, salivary gland)について、Chairperson: Jong Sang Choi, M.D., Korea University, Discusser: 森永正二郎, M.D., Saiseikai Central Hospital, Submitter: Young Sik Kim, M.D., Hyun Deuk Cho, M.D., Kwang Il Kim, M.D., and Insun Kim, M.D., Korea University

Case IAP 97-J1 (Vimentin-positive adenocarcinoma, stomach)について、Chairperson: 加藤 洋, M.D., Cancer Institute, Discusser: Yang Seok Chae, M.D., Korea University Submitter: 大屋正文, M.D., Takashi Yao, M.D., and Masazumi Tsuneyoshi, M.D., Kyushu University

Case IAP 97-K2 (Inflammatory pseudotumor, skull)について、Chairperson: Moon Ho Yang, M.D., Kyung Hee University, Discusser: 原田美貴, M.D., Kanto Teishin Hospital, Submitter: Moon Ho Yang, M.D., Kyung Hee University

Case IAP 97-J2 (Pheochromocytoma, metastatic to the bone)について、Chairperson: 町並陸生, M.D., University of Tokyo, Discusser: Moon Ho Yang, M.D., Kyung Hee University, Submitter: 二階堂 孝, M.D., 加藤弘之, M.D., and 高木敬三, M.D., Jikei University

Case IAP 97-K3 (GIST, malignant, mesenteric mass)について、Chairperson: Dae Young Kang, M.D., Chungnam National University, Discusser: 長谷川 匠, M.D., National Cancer Center Research Institute, Submitter: Jae Hyuk Lee, M.D., and Hyung Seok Kim, M.D., Chonnam University

Case IAP 97-J3 (Hepatoid carcinoma, ovary)について、Chairperson: 秦 順一, M.D., Keio University, Discusser: Woon Sub Ilan, M.D., Ewha Womans University, Submitter: 石倉 浩, M.D., Hokkaido Universityで行われた。

Coffee Break (15:25-15:45)を挟んで、15:45-16:25の間、



Speaker: 森 茂郎, M.D., Professor of Pathology, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo によって **Special Lecture: "Differentiation of Large Cell Lymphomas"**
が Chairperson: 赤木忠厚, M.D., Professor of Pathology, Okayama University のもとに行われ大変好評であった。

Slide Conference (Part #2)は16:30 - 18:30で予定されたが、遅れた。

Case IAP 97-K4 (MALT lymphoma, lung)について、Chairperson: Woon Sub Ilan, M.D., Ewha Womans University, Discusser: 深山正久, M.D., Jichi Medical School, Submitter: Dong Wha Lee, M.D., Soonchunhyang University Hospital

Case IAP 97-J4 (Mucoepidermoid carcinoma?, urinary bladder)について、Chairperson: 恒吉正澄, M.D., Kyushu University, Discusser: Nam Hee Won, M.D., Korea University, Submitter: 原岡誠司, M.D., Fukuoka University

Case IAP 97-K5 (Congenital leukemia, liver and spleen)について、Chairperson: Eun Sook Chang, M.D., Keimyung University, Discusser: 藤本純一郎, M.D., National Children's Medical Research Center, Submitter: Gee Young Choe, M.D., and Je Geun Chi, M.D., Seoul National University

Case IAP 97-J5 (Hyperplastic nodule, liver)について、Chairperson: 近藤福夫, M.D., Funabashi Central Hospital, Discusser: Sang Sook Lee, M.D., Keimyung University, Submitter: 森 正也, M.D., University of Tokyo

Case IAP 97-K6 (Wegener's granulomatosis?, ureter)について、Chairperson: Jyung Sik Kwak, M.D., Kyungpook National University, Discusser: 発地雅夫, M.D., Shinshu University, Submitter: An Hi Lee, M.D., Catholic University

Case IAP 97-J6 (EBV-related inflammatory pseudotumor, spleen)について、Chairperson: 山辺博彦, M.D., Kyoto University, Discusser: Hye Jae Cho, M.D., Inje University, Submitter: 中谷行雄, M.D., 上條聖子, M.D., and 稲山嘉明, M.D., Yokohama City Universityで行われた。

2, 3の例でDiscusserとSubmitterの意見の一致をみないことがあった。HE染色だけからの組織診断、鑑別も中々大変であるが興味深い議論が聞かれた。貴重な症例を提供下さったSubmitterの先生方、ちょっと嫌な思いで望まれたであろうDiscusserの先生方、短い時間内で有意義な討論にとぎを配っていたChairpersonの先生方に厚くお礼を申し上げます。最後の方の症例で韓国の女医先生がHE染色の封入をはがして特染されてDiscussionされたけれど、その熱意には皆が脱帽した。この例を引くまでもなく韓国病理医の先生方は米国流の外科病理学をトレーニングされているのか確かに眼力と論理的な診断思考には学ぶところが多い様に思える。会の始まる直前にMoon Ho Yang先生が虫垂炎で手術され、我々は大変心配したのですが、逞しい精神力と若い肉体力で傍目には手術後すぐであったとは分かりませんでした。

熱い議論のスライドセミナー後、Hotel New Otani 桂の間にて19:00 - 20:30の間、遠城寺宗知前会長のご挨拶からReceptionが始まり、素敵な会場とコンパニオン、ご馳走と美酒に大盛況で、また韓国病理医の奥さんまたはご主人方も交えて友好的な雰囲気で楽しく過ごし、2年後韓国での再会を約束して終わった。日韓病理医の友好を深めることのできた有意義な会合であった。

理事会報告-----

平成10年度第1回理事会報告

日時： 平成10年2月10日 18:00-20:00

場所： 慶應医大高木会館5階A会議室

出席者：牛込、鈴木、長村、丸山、赤木、社本、森、真鍋、諸星、松原

欠席者：恒吉、小西

議事内容

1. 会を始めるにあたって

(1) 牛込会長の挨拶

(2) 松原常任幹事の挨拶

(3) 常任幹事の事務局を手伝う佐々木洋子さんの紹介

(4) 前常任幹事の事務局を手伝った伊藤多恵子さんへの感謝表明

2. 3年間続き、終了予定のスライドセミナーについて

感染症の病理（堤 寛先生）、末梢神経と筋肉の病理（村上俊一先生）が1995-1997年の3年間を行って、これで終了とする。諸星教育委員長よりスライドセミナー受講者からの評価表集計（プリントあり）の説明があり、すべてのコースがよい評価であり、特に感染症の病理の評価が高い、と報告があった。

3. 新規のスライドセミナー案について

1998年より始める新規のスライドセミナーについて、1) 理事各位からアンケート集計された案、2) 受講者アンケートから出された案（消化管、泌尿器、脳腫瘍、女性生殖器、皮膚が多い）、の両者（プリントあり）を参考に議論された。今までに行ってきたコースも参考にした。また、丸山理事が前立腺生検の病理を強く提案された。議論の後、（1）下部消化管の病理（岩下明徳、福岡大学）、（2）皮膚の色素性病変（真鍋理事）

が決まり、諸星教育委員長から打診、依頼することとなった（真鍋理事はOK）。

なお、今秋のIAP教育セミナーと総会について、諸星教育委員長から説明があった。小西会計監事の協力のもと奈良県立医大の校舎を貸していただけること、病理学会の最中であるがIAP教育セミナーの前日にstaff meetingを現地で開けること、会場の見取り図（プリントあり）をもとに参加者を十分確保できる場所であること、病理学会は奈良市で奈良県立医大は橿原市であり近鉄で1時間離れた距離であること、IAP教育セミナー講師は橿原市に宿泊した方がよいこと、病理学会秋期総会の案内とともにIAP教育セミナー会場は橿原市の奈良県立医大であるとの宣伝を機会をとらえて行うこと。

4. 教育シンポジウムについて

理事各位からアンケート集計された案（プリオン病、病理解剖について、テレソロジー、外科病理における免疫分子組織化学の有用性、遺伝性癌症候群、早期肺癌の発生と病理、Epstein-Barrウイルスと腫瘍、結核の病理とその感染防御、悪性リンパ腫の新分類、Helicobacter pylori感染とその関連胃疾患、内分泌腫瘍の新しい展開、サイトカインと病理、癌とoverdiagnosisされやすい良性病変）（プリントあり）について議論された。

「Helicobacter pyloriと胃疾患」が有力となり、赤木理事にmoderatorをお願いした（赤木理事OK）。

5. IAP2000年国際会議について

牛込会長より全般的な進行状況の説明、ロゴマークの紹介、寄付の免税処置（10万円以上）の説明、特別の教育スライドセミナーを開き収益をIAP国際会議の方へ寄付することを企画はどうかとの提案があった。森理事からプログラムの進行について20個位のテーマが決まったとの説明あり。また、いろんな機会をとらえて宣伝をしようということに。

6. その他

(1) 教育委員長の任期について

長村次期会長から諸星教育委員長は1996年からやってもらい今年で3年目となるが、継続して欲しいが大変であるということなら次期教育委員長を決め、奈良でのIAP教育セミナーをみて貰っていたほうがよいのではないかと提案があった。多くの理事からも諸星先生の継続の要望があり、また副委員長（subchief）を設けて、仕事の引き継ぎを円滑にするのがよいのではないか、との意見がでた。諸星教育委員長に継続の線、また将来の後継者または副担当を考えていただきことになった。

(2) 会報の表紙について

松原から、会報をA4版へ、IAP本部の会報であるInternational Pathologyにのっとた新しい表紙へ、表紙に役員名の表記はどうか、種々の国内外の病理学の学術集会を記事としてのせてはどうか、の提案があり、了承された。また、会報に継続的にIAP2000年国際会議の準備状況、宣伝の記事をのせることになった。

(3) Dr. Robin A. Cookeの来日について

牛込会長よりInternational PathologyのEditorであるDr. Cookeが5月18日から29日まで訪日し、慈恵医大、東大で講演、名古屋を訪問される予定であることが

報告された。Dr. CookeにIAP2000年国際会議の宣伝をして貰いたい旨のことも話された。講演会、レセプションなどについて後援することが了承された。

(4) 森理事から理事の枠について提案

理事は選挙で選ばれることとなったが、日本病理学会との交流のため会長が任命する特別の枠の理事の枠を作つてはどうか、との提案があり、次回の理事会までに事務局で規約改正案のたたき台を用意することとなった。

(5) 次回の理事会について

広島での第87回日本病理学会総会の第1日の昼に第2回理事会を予定することに決まった。

平成10年度第2回理事会報告

日時：平成10年4月14日（火曜日）12:10-13:30

場所：ホテルサンルート広島の2階、芙蓉の間

出席者：牛込、鈴木、長村、小西、丸山、赤木、社本、真鍋、恒吉、松原

欠席者：森、諸星

議事内容

1. 新規のスライドセミナーについて

諸星教育委員長からの報告が協議され承認された。会場などで色々お世話になる小西会計監事（今年度日本病理学会秋期総会会長）から会場である奈良県立医科大学配置図の説明があった。また、秋期総会の案内と同時にIAP日本支部の教育プログラムの案内もしてもらいたとの提案があり、お願いすることになった。加えてスライドセミナーや教育シンポジウムの講師陣や関係者は前日の11月19日に現地に移動された方がよいと話された。宿舎は権原ロイヤルホテルが便利であるとの話であった。

2. 教育シンポジウムについて

主題：*Helicobacter pylori*と胃疾患、モデレーター 赤木忠厚（岡山大・医・第二病理）で、各スピーカーは1. *H pylori*の細菌学、小熊恵二（岡山大・医・細菌学）、2. *H pylori*感染による胃粘膜障害の機序、名倉 宏（東北大・医・病理学）、3. *H pylori*感染の病理診断、勝山 努（信州大・医・中央検査部）、4. *H pylori*感染とMALTリンパ腫、吉野 正（岡山大・医・第二病理）とするとの赤木理事よりの提案が了承された。時間は9時から12時の少し前までとすることになった。12時から総会を開くためである。

3. IAP国際会議について

Nice 1998の演題締め切りは4月15日で、名古屋のこともあるので多くの参加があることが望ましいことが話された。旅行業者のワールドミーティング社が色々と細かい案内をしていることの紹介がなされた。Nagoya 2000の準備も着々とされていることが話された。

4. 理事の枠についての規約改正について

前回理事会で森理事から病理学会との連携を緊密にする意味から病理学会とのパイプになる特別枠の理事を設けたらどうかとの提案があり、今回また協議を行った。病理学会には「国際交流委員会」があり、丸山、恒吉両理事、諸星教育委員長がその委員である。日本病理学会と日本病理医協会とのより親密な関係などの雰囲気の中でIAP日本支部もこの国際交流委員会の一部でよいのではないかとの意見があることも紹介された。しかし、国際交流委員会の目指しているものと、IAP日本支部の会の目的は必ずしも一致していないことも議論された。国際的なレベルでの外科病理学、人体病理学の生涯教育や研究活動といったことは以前よりIAP日本支部が手掛けそれなりの成果を挙げてきたことが強調された。病理学会、国際交流委員会との交渉、議論をもっと統けていく必要性が確認された。また、IAP日本支部の今までの活動をまとめそれを宣伝する必要性についても議論された。

5. 会員名簿の発行について

2年に一度は会員名簿を発行することになっているので準備を進めることになった。会員に住所、所属、電話とファックス番号を葉書で問い合わせたり、印刷などで約60万円の見積もりを貢っている旨が報告された。E-mailについても希望者はのせるとの議論がなれた。本部役員、外国の支部役員も掲載するのがよいとの議論もなされた。名簿作成への仕事量との関係で大変であるなら毎年に延ばしてもよい旨の議論がなされた。

6. USCAPボストンでのExecutive Committee of IAP Meeting (IAP本部)

3月1日BostonでUSCAPの前日に行われ、鈴木前会長、町並President of the World Congress Nagoya 2000、松原が出席した。町並先生からXXIII Congressの準備状況が報告され、牛込会長（Asia, Vice Presidentでもある）から日本支部、韓国支部、Asian Pacific Countriesの活動について書類をもって報告された。

3月3日にXXII CongressについてのIAP本部役員とFrance支部役員の協議会が開かれ松原が出席した。(1)スケジュール、プログラム、会場などの説明、(2)経費がかかり金集めが大変なこと、(3)経費に余裕ができればchairmanなどに対してcocktail partyを開きたいこと、(4)IAP本部のOfficerと会全体でのguest speakersに対してはfull fair economy ticketをCongress主催者側が持つこと（long courseやshort courseのspeakersに対しては何もしなくてよいこと）、(5)閉会式で旗を日本側が受け取ること（Kimono Ladyは如何かと複数の委員から提案があった、私は着物は着るのが大変で脱ぐのは簡単だからSumo wrestlerは如何かと答えた）、(6)Nice会場でデスクを設けて日本側はFirst announcement（すべてで20,000枚はあるだろうとのこと）、poster、小さなお土産を用意して宣伝をすること（ちなみにNice 1998へのものは小さな匂い袋であった）、(7)スライドガラスをpackingしたり、送ることが大変で、すべてcomputerで管理するのがよい、(8)スライドガラスを送るときcommercially noneなど書いておかないと、国によっては一律に関税がかかって金が余計にかかることが、などが協議、報告、要望された。

7. IAPのTreasurerのDr. J.P. Strongを囲んでの夕食会

IAP World Congress 2000の名古屋誘致に協力して頂いたDr. Strongの来日を機会に都内在住理事有志（牛込会長、鈴木前会長、長村次期会長、松原）、石川、福田名誉会員、町並先生（東大）、石井先生（東邦医大）が夕食会を国際文化会館食堂にて開催した。参加者は会費7,000円を払い、Dr. StrongさんはIAP本部が支払った。

8. 諸星教育委員長留任

諸星教育委員長にお願いしていた留任の件について松原より強い要望のもと2-3年継続して任に当たって下さる旨の返事を頂いたことを報告した。また、教育委員長は大役であり仕事の円滑な継続の必要性から、副委員長の職を新たに設け、副委員長から委員長へと仕事の引き継ぎを行いたい旨の提案が松原からなされた。

9. スライドセミナーと教育シンポジウムの謝礼について、平成8年度第2回理事会の決定事項が確認された。

10. 外国からDr. Anthony Leong (The Prince of Wales Hospital, Hong Kong)とDr. Steven G. Silverberg (University of Maryland)が国際細胞学会で来日するので、これを機会にセミナーをやってもらつてはとの提案があり、了承され長村次期会長にモダレーターをお願いすることになった。（後ほど平成10年5月14日午後4時-6時、慈恵医大高木会館5階B会議室と決まった）

11. Dr. Robin A. Cooke, Editor of the International Pathology (Wesley Medical Centre, Australia)が来日され、5月19日午後6時から慈恵医大にてセミナーをされ、28日には東大町並先生の所でもセミナーをされる。5月27日に役員有志で夕食会を行うことが提案され承認された。夕食会の幹事は松原が行う。

庶務報告-----

1. 会員総数 591名（平成10年5月31日現在）

新入会員20名（平成9年11月以降）

賛助会員 5社

退会者 6名（平成10年度退会を申し出られた方）

2. 新入会員20名（敬称略、順不同）平成9年11月以降

横井 豊治（和歌山県立医科大学病理学第2教室）

鹿股 直樹（兵庫県立加古川病院病理）

円山 英昭（高知医科大学第一病理学教室）

清久 泰司（高知医科大学第一病理学教室）

柴田 亮行（東京女子医科大学病理学第一講座）

原 満（虎の門病院）

小林 雅子（金沢大学医学部病理学第一講座）

今井 美和（金沢大学がん研究所）

元井 亨（東京大学医学部附属病院病理）

元井 紀子（東京大学医学部附属病院分院検査部病理）

清塚 康彦（関西医科大学病理学第2講座）

柴田 雅彦（国立がんセンター中央病院臨床検査部）

柏原 賢治（群馬大学医学部第二病理学教室）

Chong Ja-Mon（自治医科大学第1病理学教室）

高島 裕一郎（東葛病院）

山下 弘子（富山県立中央病院臨床病理科）

渡邊 信（神戸大学医学部保健学科）

大谷 博（長崎大学医学部第一病理学教室）

笹栗 育和（浜松労災病院病理）

清水 和彦（国立病院機構研究検査科）

3. 賛助会員

株式会社文光堂、京浜予防医学研究所、エーザイ株式会社、岩井化学薬品株式会社、サクラ精機株式会社

4. 退会者（敬称略、順不同）

斎藤 謙、毛利 昇、岡本 司、中山 崑、岡野 錦弥、薄田 浩幸

5. IAP本部に日本支部会員名簿と年会費（1名あたり4ドル、581名分）、Laboratory InvestigationとModern Pathologyの購読料（それぞれ46名、76名）の送金と申込者の住所、氏名の発送を2月に済ませました。雑誌がお手元に届くのに時間がかかるものと思いますが、何卒ご了承下さい。

International Seminarなどの報告-----

Jack P. Strong先生を囲んでの夕食会（前述）

IAPタイ支部の役員の来日に関して

平成10年5月6日、Dr. Pichet Sampatanukul (Treasurer), Dr. Samreung Rangdaeng (President-Elect), Dr. Benjaporn Chaiwun (Chiangmai University)が国際細胞学会(IAC)の第13回国際会議のため来日されたのを機会に、日本の病理医との親交を深める機会があった。前田昭太郎（日本医大、多摩永山病院）、根本則道（日本大学）、工藤玄惠（東京医大）の3先生と牛込が中心となって、意見交換を行い、日タイ間の交流を深めた。なお、Dr. Benjapornは日大で、Dr. Samreungは慈恵医大で、Dr. Pichetは日本医大でそれぞれ、講演をされた。再会を約して、同月14日に帰国された。滞在中、中島博徳氏（日本医大、多摩永山病院・病理）が終始細やかな世話をされたことは特筆に値する。

Anthony S-Y Leong教授, Steven G. Silverberg教授によるInternational Seminar on Diagnostic Pathologyの開催について

国際細胞アカデミー(IAC)の第13回国際会議のため来日したのを機会に、両教授による診断病理セミナーを開催した。開催日時は平成10年5月14日 16:00-18:00、開催場所：慈恵医



大・高木会館5階B会議室であった。Anthony S-Y Leong 教授(Chinese University of Hong Kong)は "Hodgkin's Disease, One Disease or More?" Steven G. Silverberg教授(University of Maryland)は "A New Grading System for Ovarian Carcinoma"と題して、参加者に有益な講演を行い、活発な質疑応答があった。講演会に引き続いだ、両教授夫妻を囲んで在京の有志が集まり、国際文化会館で夕食会をもった。

Robin A. Cooke教授夫妻を迎えて

牛込の招きで、平成10年5月17日に来日され、2週間滞在された。IAP本部の役員の一人(International Pathology Editor)



であり、Queensland大学の教授である。慈恵医大、九大、名古屋市立大で "The Colourful People of Papua New Guinea" を、横浜市立大と東大で "Tumours in the Tropics" を講演された。恒吉正澄、白井智之、社本幹博、三杉和章、町並陸生らの各教授らにお世話いただいた。この間、同教授夫妻を囲んで、横浜、福岡、名古屋、東京において、各々関係者が中心となって、夕食会をもうけた。親交を深めたのみでなく、「Nagoya 2000」に向けての宣伝や同伴者プログラムなどに関して貴重なご意見を頂けた。

MEETINGS-----

ADVANCES IN CYTOLOGY June 22 - 26, 1998 at the Ritz-Carlton Hotel, Boston, Course Directors: K. R. Lee, M.D. and E. S. Cibas, M.D. of the Brigham and Women's Hospital. To view course information on-line, visit home page: <http://www.feltco.com/hmseme/>

PRACTICAL PLACENTAL PATHOLOGY A "HANDS-ON" GROSS AND MICROSCOPIC TUTORIAL September 12-13, 1998 at the Brigham and Women's Hospital, Course Directors: D. R. Genest, M.D. and D. J. Roberts, M.D., on-line information : <http://www.med.harvard.edu/conted/>

GI Pathology Course in Hawaii, October 5-8, 1998, co-sponsored by the Departments of Pathology of Stanford University and the California Pacific Medical Center in San Francisco. Program Director: Dr. R. Haggitt. Contact J. L. Bennington, M.D., Chairman, Department of Pathology, California Pacific Medical Center, 3700 California Street, San Francisco, CA94118

DIAGNOSIS OF EARLY CERVICAL NEOPLASIA A Hands-on Microscopic Tutorial, November 21-22, 1998 at the Brigham and Women's Hospital. Course Director: C. P. Crum, M.D., on-line information: <http://www.med.harvard.edu/conted/>

新入会員の募集について-----

IAP日本支部では、まだ会員となられていない方々の入会をおすすめいたします。入会希望の方がおありでしたら会員申込書(事務局へ請求して下さい)にてお申込みください。

入会資格：病理学の経験年数5年以上で、現在病理を専攻されている方。

入会方法：入会申込書にご記入の上、IAP事務局までお送り下さい。その際、会員2名の推薦が必要となります。お近くに適当な方がいらっしゃらない場合は、事務局にご相談下さい。我々が推薦者となることも可能です。入会が承認され次第、振込用紙を送付いたしますので、その後入会金1,000円、年会費4,000円、合計5,000円ほどお振り込みください。

特典としては、

1. IAP本部に会員名が登録され、各国支部の活動などが分かります。IAP本部のNews BulletinのInternational Pathology(年4回)が届けられます。2年ごとに開催されるIAP国際会議の連絡を受けやすくなります。

2. IAP日本支部の会報である国際病理アカデミー日本支部のNews Bulletin(年4回)が届けられます。本学会のニュース、海外のセミナーなどの情報が掲載されます。

3. Laboratory InvestigationやModern Pathologyの雑誌が大変安価に購読できます。Laboratory Investigationの市場価格(年間)：43,500円に対してIAP会員(年間)：11,000円。Modern Pathologyの市場価格(年間)：31,200円に対してIAP会員(年間)：11,000円です。

4. 本学会の病理学教育セミナー(スライドセミナー、教育シンポジウム—日本病理学会の後援—)などに参加しますと、認定病理医資格更新のための単位がもらえます。

5. 終了したスライドセミナーのセットが会員のみ(原則として施設単位)に頒布されます。

6. スライドセミナーのセットが借用できます。などがあります。

あとがき-----

国際病理アカデミー(IAP)日本支部の会報のスタイルを変えてみました。本部の会報であるInternational Pathologyのスタイルを真似ています。日本支部の会報の号数のことですが、日本支部が1961年に創設され今年が37年目ということでVolume 37とっています。

International PathologyのVol. 39 No. 1にはIAP Congress 2000, in Nagoya, Japanが特集として取り上げられています。EditorのCooke先生が宣伝を始めてくれたものでしょう。Philip Franz von Siebold(1796-1866)によるオランダと日本の交流から紹介が始まっています。丁度2年前にシーポルト生誕200周年記念という展示会が両国の江戸博物館で開催され、私も出かけてみた。彼のオランダ、ドイツに持ち帰った夥しい量の江戸時代末期の日本の絵、書や品々が展示されていたが、その量と保存のよいことに大変驚いた。シーポルト像は日本への西洋医学の窓口、伝達者というよりは、言葉は悪いが丸で文化収集趣味とでもいうものであったのか、などと考えさせられた。ドイツ語訛りのオランダ人(シーポルトは本当はドイツ人)として日本にどうしても来てみたかったらしいのですが、娘のおイネさんからのご子孫を日本に残し、また息子のAlexanderも日本人の妻をめどり日本の不平等条約の改正などに日本側にたって尽力してくれたそうである。正に"一粒の麦もし死なずば"であろう。そういえば正真正銘のオランダ人であったPompe van Meerdervoort先生(1829-1908)について語られることが少ないのは何故であろうか。彼こそ日本に始めて西洋医学を基礎から系統的に持ち込んでくれた恩人であろうと思う。

日本支部のこのNews Bulletinでも日本支部の歴史といったことについて、できれば連載記事の形で残していくたいと考えている。日本支部の歴史の1ページ1ページを記された先生方に記事をお願いしたいと考えています。どうかよろしくお願いします。

また、日頃IAP日本支部に意見や注文のある方いらっしゃるのではと思います。800から1000字位までの投稿がありましたら掲載したいと考えています。Text fileでE-mailで送って頂ければ編集が大変楽ですので、この形でお願いしたいと考えます。

今年の1月から常任幹事を長村次期会長から引き継ぎ、勝手も分からず鈴木前会長、牛込会長、長村先生、伊藤多恵子さんに教えて貰いながらやっております。皆さまには迷惑をかけているのではないかと心配ですが、事務局秘書の佐々木洋子さんと一緒に頑張りますのでよろしくお願ひします。

常任幹事：松原修／事務局秘書：佐々木洋子
〒359-8513 所沢市並木3-2 防衛医科大学校病理学第2

P:042-995-1507 / F:042-996-5193

E-mail: matubara@ndmc.ac.jp

同封：International Pathology Vol. 39 No. 1 1998
IAPスライドセミナー1998年申込用紙(葉書)